

上級救命講習

1. 到達目標	<p>1. 心肺蘇生法を、救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。</p> <p>2. 自動対外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</p> <p>3. 異物除去法及び大出血時の止血法を実施できる。</p> <p>4. 傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法等を習得する。</p>
2. 標準的な実施要領	<p>1. 講習については、実習を主体とする。</p> <p>2. 1クラスの受講者数の標準は、30名程度とする。</p> <p>3. 訓練用資機材一式に対して受講者は5名以内とすることが望ましい。</p> <p>4. 指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。</p>

項目		細目	時間(分)	
応急手当の重要性		応急手当の目的・必要性（心停止の予防等を含む）等	15	
救命に必要な応急手当（成人・小児・乳児・新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	反応の確認、通報	285
			胸骨圧迫要領	
			気道確保要領	
			口対口人口呼吸法	
			シナリオに対応した心肺蘇生法	
	AEDの使用法（成人に対する方法）	AEDの使用法（実技）	AEDの使用法（ビデオ等）	60
			指導者による使用法の呈示	
			AEDの実技要領	
	異物除去法	異物除去要領	60	
	効果確認	心肺蘇生法の効果確認		
止血法	直接圧迫止血法	60		
心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験）	知識の確認			
心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験）	シナリオを使用した実技の評価			
その他の応急手当	傷病者管理法	衣類の緊縛解除	120	
		保温法		

		体位管理	
	外傷の手当要領	包帯法	
		副子固定法	
		熱傷の手当	
		その他の手当	
	搬送法	搬送の方法	
		担架搬送法	
応急担架作成法			
合計時間			480

備 考	<p>1. 上級救命講習は、業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とし、この場合は、2年から3年間隔で定期的な再講習を行うこと。</p> <p>2. 筆記試験及び実技試験については、客観的評価を行い、原則として80%以上を理解できたことを合格の目安とすること。</p> <p>3. e-ラーニングを活用した講習や普及時間を分割した講習を可能とする。</p>
-----	---